

宮城県日中友好協会

TEL・FAX 022-274-3811

E-メール jcfa-miyagi@rose.plala.or.jp

ホームページ <https://miyagi-jcfa.com/>



8月、(葉月 はづき)。仙台七夕まつりをはじめ東北六県の夏祭りが行われます。祭りを楽しむためにも酷暑の毎日がつづきますがくれぐれもご健康にお気を付けください。

1. 8月の行事予定

日 時	行 事 名	場 所
8月6日(水)	七夕・ゆかた着付け体験会 10:00 受付・着付け開始	東京エレクトロンホール宮城 (宮城県民会館) 会議棟 4F
8月10日(日)	仙台華花芸術団創立10周年記念中国伝統 舞踊と馬頭琴の世界 開場13時、開演13:30～、入場無料	松島町文化観光交流館 アトレるホール
8月30日(土)	1) 宮城県日中友好協会定期総会 13:30～ 2) 懇親会(定期総会終了後)会費:5000円 (会場定員は、30名ですので申し込みは早めにお願 いいたします)。	東京エレクトロンホール宮城 (宮城県民会館) 602 中会議室

1、女性委員会で定期総会を開催

6月25日、県女性委員会では2025年度・第39回定期総会を仙台市中央市民センターで行いました。第1部として同委員会・金井恭子相談役による講演「出会いとあゆみ」があり、長野での女性委員会設立40周年を記念して表彰された故・長池博子初代委員長の活躍の足跡や思い出をパワーポイントで紹介。懐かしい思い出とともに、参加者の心にしみる素晴らしい内容となりました。第2部では2024年度の事業報告と決算、25年度の事業計画案と予算案が承認されました。また役員人事では瀬戸加寿子副委員長の専任と石橋孝子副委員長、鎌田菊江事務局長等の新任人事が承認されました。この後、お弁当による昼食会、懇談会がもたれ、次年度への出発と共に3年後の宮城での全国大会開催に向け、団結して前進していく事を誓い合う総会となりました。(委員長・水戸憲子)



2、石巻地区日中友好協会 2025 年度定期総会開く！

2025 年度定期総会は6月28日(土)午後4時から石巻市「飛翔閣」において、会員や来賓など25名が参加し開かれました。総会では冒頭、今年5月逝去された宮城県日中友好協会前会長の江幡武先生への黙祷を捧げ始めました。白井会長挨拶に引き続き来賓としてご参加頂いた石巻市工藤均副市長と中華人民共和国駐新潟総領事館崔為磊総領事からご祝辞を頂戴し、当協会顧問である安住淳衆議院議員のメッセージを読み上げ議事に入りました。総会議長に木村裕一理事を選出し、2024 年事業報告を木村理事長、2024 年決算報告を秋月理事、会計監査報告を高瀬監事が行い、異議なしで報告が承認されました。2025 年事業活動(案)を木村理事長、2025 年予算(案)を秋月理事が提案しました。これらについても異議なしで全体の承認を頂きました。総会終了後に参加者の集合写真を撮影し、記念講演に入りました。記念講演は「トランプ相互関税に立ち向かう中国経済」と題し、白井会長

が行いました。この中では、現在の中米の貿易関係から見てむしろ大変なのはアメリカの国民の生活だとして、状況に変化が出てくるとの見方を示した。交流会は木村理事長の乾杯音頭で交流に入りました。この中では宮城県日中友好協会を代表して孫 成華副理事長と石巻市国際交流協会木村正樹会長よりご祝辞を頂戴いたしました。さらに6月21日行われた温州市元温州市水産加工技術研修生訪問団の受け入れで世話役を担った和田さんから御礼の報告がありました。また現在開講中の中国語講座の講師である衣海波先生から講師としての苦勞など話して頂きました。閉会の挨拶を加賀副理事長が行い、総会を終了しました。会員の皆さんが石巻地区日中友好協会の活動に参加して頂きますようお願いいたします。(理事長・木村正幸)



3、富谷市日中友好協会第30回定期総会を開催しました！

6月29日、町上会館にて「第30回定期総会」が開催されました。若生裕俊富谷市長、金子透富谷市議会議員、中山耕一宮城県議会議員の来賓挨拶。日中友好の活動にご尽力いただいた奥山清市さん、中鉢広さん、本郷祐子さんに感謝状の贈呈が行われました。議事では、2024年度の活動・決算報告、監査報告並びに、2025年度の活動方針と予算案が審議され、すべて承認されました。閉会後には懇親会を開催し、ビンゴゲームでは笑顔と歓声があふれるひとときとなり、会員同士の親睦も一層深まりました。本総会が30回という節目を迎えられたのは、日頃より支えてくださる会員の皆さんのご協力のおかげです。“次の30年に向かって”更なる日中友好活動をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。



4、上海魯迅初級中学の学生が来仙

昨年に引き続き、上海魯迅初級中学の学生18名が仙台を訪れた。7月1日夜は、宮城華僑華人女性聯誼会主催の歓迎会が仙台市内の飲食店で開かれ、佐々木会長、新沼青年委員会委員長、中村青年委員、横山が参加した。佐々木謙会長が歓迎の挨拶を述べ、魯迅碑や魯迅顕彰会の活動について紹介。さらに「皆さんは、私たちの子供と同じです。将来は是非、魯迅のように仙台の大学に留学してください。待っています」と激励した。その後、記念品の贈呈が行われ、県日中からは魯迅之碑を印刷したクリアファイルが学生に一枚ずつ、魯迅初級中学からは魯迅の胸像が贈られた。翌日は、魯迅之碑の前で記念式典が行われ、佐々木会長、金井副会長、孫副理事長、瀬戸理事、横山が出席した。薛宮華連会長の挨拶の後、碑前献花式が行われた。その後、日本華僑社の段躍中氏の講演、中学生による歌やスピーチが披露された。一行はその後、東北大学の階段教室や資料館を見学し、午後は仙台二華中高で学生達と交流した。互いの母語ではない英語で何とか交流しようとする姿、伝えたいことが伝わった時のうれしそうな顔、交流会の最後の離れがたい様子に、青少年の国際交流の大切さを感じた。学生達の中には、もちろん初めて日本に来た子もいたが、東京や大阪などを訪れたことがある学生もいるそうで、東北地方を訪問するのは初めてと言っていた。上海魯迅中学の来訪が継続して行われることを期待している。(副会長・横山弥生)

